

Max Planck Institute for Nuclear Physics での滞在

物理学専攻 博士課程2年 米田浩基

ドイツ・ハイデルベルクにある Max Planck Institute for Nuclear Physics に、2018年7月21日から10月7日まで滞在した。受け入れ研究者である Felix Aharonian 教授と高温プラズマからの核ガンマ線放射に関する理論研究を行ったり、H.E.S.S.望遠鏡の解析手法を学ぶなどした。特に前者は私が行っている MeV ガンマ線検出器開発と密接にリンクするもので、面白い結果も出たので、今後、膨らませていきたい。

また、滞在中に、ベルリンで開かれた国際会議 TeVPA に参加し、私が開発してきた MeV ガンマ線検出器について、口頭発表をしてきた。そこで同様の研究をしているアメリカやヨーロッパの研究者と議論できたこともこの滞在の大きな収穫だった。彼らは、仲間をうまく集めて大きなコミュニティを作っているように感じ、我々はどう振る舞うべきか考えさせられた。

週末は、様々な場所に旅行しにいった。観光地には川が流れていることが多く、その川沿いで飲むビールは、自由を感じさせてくれた。

最後に、ALPS 関係者の皆様、現地でお世話になった Aharonian グループの皆様に深く感謝を申し上げたい。



ケルシュ@ケルン